

透析学会認定教育行事 (医療法人社団嬉泉会 第9回業務報告会)



令和4年1月8日(土)
参加人数500人規模の
Web形式で開催しました。
丸山理事長が『透析医療を
中心とした嬉泉会における
COVID-19感染症対策』と
いう演題で講演をおこない
ました。

丸山理事長による演題発表

(4) 嬉泉会における透析患者COVID-19感染症例

- 24名の透析患者さんが罹患
- 転院が12名(死亡退院5名、自宅退院7名)
- 自宅退院11名
- 死亡退院1名
- ワクチン2回接種後のブレークスルー感染にて亡くなった患者さんはC型肝炎の基礎疾患があった
- レムデシビルを使用した患者は5名
- デキサメサゾンを使用した患者は6名

(3) 透析患者のCOVID-19感染症罹患後の急激な経過例について

必ず元気になって戻ってくると手を振りながら送り出した透析患者ですが、下画像のように一日で急激な悪化をきたして、抗凝固療法・デキサメサゾン・抗生剤・メチルプレドニゾロン・高容量酸素マスク治療を受けたが二週間後に息を引き取った。
透析患者の場合、急激な変化を起こすことがわかった。



【まとめ】

透析患者のCOVID-19感染症対策は必要であり、特にワクチンの無い状況では急変をきたした。ワクチン接種後でもブレークスルー感染にて亡くなったが、それでもワクチンの有効性は明らかであった。幸いにしてワクチン接種も多くの医療スタッフの善意で進んでくれた。

最後に、COVID-19発生当初より、コロナ患者の受け入れやワクチン大規模接種等における医師・看護師・コメディカルスタッフの方々の献身的な活躍に敬意を表します。